

# 経政

世阿弥作

ワキ

シテ

平

経政

僧

都行慶

季は  
秋  
地は  
京都

「是は仁和寺御室に仕へ申す。僧都行慶にて候。扱

も平家の一門但馬の守経政は。いまだ童形の時より。君御寵愛なのめならず候。然るに今度西海の合戦に討たれ給ひて候。又青山と申す御琵琶は。

経政存生の時より預け下れて候。彼御琵琶を仏前にすゑ置き。管絃講にて弔ひ申せとの御事にて候ふ程に。役者を集め候。

サシ「實にや一樹の陰に宿り。一河の流れを汲む事も。皆

これ他生の縁ぞかし。ましてや多年の御值遇。恵を深くかけまくも。忝なくも宮中にて。法事をなして夜もすがら。平の経成等正覚と。弔ひ給ふ有難さよ。

地

「ことに又。彼青山と云ふ琵琶を。く。亡者の為めに手向けつゝ。同じく糸竹の。声も仏事をなし添へて。日々夜々の法の門。貴賤の道も普しや。く。

シテサシ

「風枯木を吹けば晴天の雨。月平沙を照らせば夏の夜の。霜の起居も安からで。仮に見えつる草の陰。

露の身ながら消え残る。妾執の縁こそつたなけれ。

ワキ 「不思議やな早深更になるまゝに。夜の灯かすかなる。光の内に人影の。有るか無きかに見え給ふは。如何なる人にてましますぞ。

シテ詞 「我經政が幽靈なるが。御弔ひの有難さに。是まで顕はれ来りたり。

ワキ 「そもそも經政の幽靈と。答ふる方を見んとすれば。又消えくと形もなくて。

シテ 「声はかすかに絶え残つて。

ワキ 「正しく見えつる人影の。

シテ 「有るかと見れば。

ワキ 「又見えもせで。

シテ 「有るか。

ワキ 「無きかに。

シテ  
「かげろふの。」

地 「幻の。常なき身とて経政の。く。もとの浮世に  
帰り来て。それとは名のれども其主の。形は見え  
ぬ妄執の。生をこそ隔つれども。我は人を見る物  
を。実にや呉竹の。筧の水はかはるとも。住み飽  
かざりし宮の中。幻に参りたり。夢幻に参りたり。  
ワキ詞 「不思議やな経政の幽靈かたちは消え声は残つて。  
なほも言葉をかはしけるぞや。よし夢なりとも現  
なりとも。法事の功力成就して。亡者に言葉をか  
はす事よ。あら不思議の事やな。

シテ詞  
「我若年の昔より宮の中に参り。世間に面をさらす  
事も。偏に君の御恩徳なり。中にも手向け下さ  
るゝ。青山の御琵琶。婆婆にての御許されを蒙り。  
常に手馴れし四つの緒に。

地 「今も引かるゝ心故。聞きしに似たる撥音の。是ぞ  
正しく。妙音の誓ひなるべし。されば彼経政は。

く。 いまだ若年の昔より。 外には仁義礼智信の。 五常を守りつゝ。 内には又花鳥風月。 詩歌管絃を専とし。 春秋を松陰の。 草の露水のあはれ世の。 心にもるゝ花もなし。 く。

ワキ詞  
「亡者の為めには何よりも。 婆婆にて手馴れし青山の琵琶。 おの／＼樂器を調へて。 糸竹の手向をすゝむれば。

シテ詞  
「亡者も立ちより灯の影に。 人には見えぬ者ながら。

手向の琵琶を調ぶれば。

ワキ  
「時しも頃は夜半楽。 眠りを覚ますをりふしに。

シテ  
「不思議や晴れたる空かき曇り。 俄に降りくる雨の音。

ワキ  
「しきりに草木を払ひつつ。 時の調子も如何ならん。

シテ  
「いや雨にてはなかりけり。 あれ御覽ぜよ雲の端の。

地  
「月に双の岡の松の。 葉風は吹き落ちて。 村雨の如くにおとづれたり。 おもしろや折からなりけり。

大絃は嘈々として村雨の如し。さて小絃は切々として。私語に異ならず。

クセ  
「第一第二の絃は。索々として秋の風。松を払つて疎韻落つ。第三第四の絃は。冷々として夜の鶴の。子を思つて籠の内に鳴く。鶏も心して。夜遊の別れとゞめよ。

シテ  
「一聲の鳳管は。

シテ地  
「秋秦嶺の雲を動かせば。鳳凰も是にめでゝ。桐竹

に飛び下りて。翅を連ねて舞遊べば。律呂の声々に。心声に発す。声あやをなす事も。昔を返す舞の袖。衣笠山も近かりき。おもしろの夜遊や。あらおもしろの夜遊や。あらなぞり惜しの夜遊やな。

シテ詞  
「あら恨めしやたまゝ闇浮の夜遊に帰り。心をのぶるをりふしに。又瞋恚の起る恨めしや。

ワキ  
「さきに見えつる人影の。なほ顕はるゝは経政か。

シテ  
「あら恥かしや我姿。はや人々に見えけるぞや。あ  
の灯を消し給へとよ。

地  
「灯を背けては。く。共にあはれむ深夜の月をも。  
手に取るや帝釈修羅の。戦ひは火を散らして。瞋  
恚の猛火は雨となつて。身にかゝれば。払ふ剣は

他を悩まし。我と身を切る。紅波はかへつて猛火  
となれば。身を焼く苦患はづかしや。人には見え  
じ物を。あの灯を消さんとて。其身は愚人夏の虫  
の。火を消さんと飛び入りて。嵐と共に灯を吹き  
消して。暗まぎれより。魄靈は失せにけり。魄靈  
の影は失せにけり。